

編集後記

早いもので、1995年も残りわずかとなりました。今年は、阪神大震災に始まり、地下鉄サリン事件とオウム真理教への大捜査、1ドル80円台に突入の円高、相次ぐ銀行、信組の不祥事や経営破綻、フランスの核実験再開、日米地位協定をめぐる問題など、歴史に残る大事件が多く発生した1年でした。なかでも、「オウム事件」は、日本の安全神話や宗教のあり方など、さまざまな議論を呼び起こしました。最近はずいぶん食傷気味ですが、これほどまでにテレビにかじりついた1年はなかったかと思えます。

オウムの幹部とほぼ同年代の私にとって、なぜ彼らがあのような方向に走ったのかは高い関心があります。しばしば社会問題の原因は「受験一辺倒のマニュアル教育」で片づけられますが、これはいまに始まったことではないといえます。解剖学者の養老孟司氏が対談で、「教育勅語には宗教と哲学が省かれている。背景にイデオロギーがあるわけではなく、マニュアル的。…教育勅語そのものは消える方向にあっても、それを作り上げた隠れたイデオロギーというか精神は、脈脈と生きているのではないか」と指摘しているのが印象的でした。（『中央公論』95年6月号）。人間は程度の差こそあれ、イデオロギー、宗教なしには生きられないといえます。彼らは、教育で得られなかったイデオロギーを宗教に求めたのかもしれませんが。

そういえば、「あなたはだれ？」の問いかけから始まる『ソフィーの世界』（ヨースタイン・ゴルデル著 NHK出版）が大ベストセラーだそうです。新年に向けて、自分なりの哲学、自分の方向性を考えてみるのもいいかもしれません。（M）

編集委員長 塩野谷祐一（社会保障研究所長）

編集委員 井堀利宏（東京大学教授）

貝塚啓明（中央大学教授）

郡司篤晃（東京大学教授）

佐野陽子（慶応義塾大学教授）

地主重美（駿河台大学教授）

庄司洋子（立教大学教授）

清家 篤（慶応義塾大学教授）

都村敦子（日本社会事業大学教授）

直井道子（東京学芸大学助教授）

橋本宏子（神奈川大学教授）

平岡公一（明治学院大学教授）

宮澤健一（社会保障制度審議会会長）

宮島 洋（東京大学教授）

伏見恵文（社会保障研究所研究部長）

高木安雄（社会保障研究所調査部長）

編集幹事 栃本一三郎（社会保障研究所主任研究員）

駒村康平（社会保障研究所研究員）

丸山 桂（社会保障研究所研究員）

季刊

社会保障研究 Vol. 31, No. 3, Winter 1995（通巻130号）

平成7年12月25日 発行

定価2,060円（本体2,000円）

編集・発行所

社 会 保 障 研 究 所

〒107 東京都港区赤坂2丁目19番8号

赤坂2丁目アネックスビル内

電話（3589）1381

製作・発売

財団法人 東 京 大 学 出 版 会

〒113 東京都文京区本郷7丁目3番1号

電話（3811）8814 振替00160-6-59964

印刷・製本 三美印刷株式会社